

バックラッシュが全国的にこんなに強烈な組織的動きをしているということが、三井さんの事件を通して浮き彫りになった。行政は、そのバックラッシュに巻き込まれて、男女平等の推進施策を後退させている。我々は、1975年以来、男女平等を進めようと、いろいろ活動をしてきた。ところが何十年たっても、まだ変わらない。あー、日本はどこに行くのかと考えると恐ろしくなった。それで、三井さんの裁判は、私の人生をかけてやらなくては行けない、という気になった。

大野町子(弁護士、三井マリ子常任弁護団)

最後まで頑張ってください。いつも応援しています。

相磯まつ江(弁護士、三井マリ子弁護団)

三井さん、頑張って。あまりのひどさに、私も心底怒っています。この右傾化する社会にあって、波は高いと思います。くれぐれもお身体おといの上、頑張ってください。三井さん、絶対に勝ちましょうね。

沖藤典子(作家)

私は、改めて三井さんが書かれた100ページ余の「陳述書」を読み直しました。何度読んでも、心が痛くなります。これほどの屈辱と恐怖に、決して負けずに立ち続けた三井さんの強さを思うと、苦しくて涙が出てきます。私も私の権利を勝ち取る為に、微力ながら支援しつづけてしたいと思います。

折原由起子(手話通訳者)

女性と非正規職員の人権を蹂躞することを許さない。裁判長、後世に恥じない裁判をしてください。女性たちは勝つまであきらめないぞ〜

山城直美(沖縄県、労組職員)

三井さんのひるまず闘う姿がいつも美しいなあと思っています。がんばってください。

小枝すみ子(東京都千代田区議会議員)

この裁判に勝たないと、労働者が卑しめられ軽んじられる傾向に歯止めがかけられないと思います。がんばろ〜！ 三井さん大好き！

小西佑佳子(兵庫県川西市議会議員)

わたしは三井マリ子さんの裁判を全面的に支持します。この裁判の行方は、男女平等を願うすべての女性の命運がかかっていると言っ過言ではないでしょう。非常勤やパート労働など非正規職員は、圧倒的に女性が多い日本の現実を直視するならば、女性の労働権を認めない伝統的性別役割分担に固執する勢力がいかに男女平等を敵視し、法の下での平等を保障する憲法を踏みにじろうとしているか見てきます。三井マリ子さんの雇止めは、一人のフェミニストに加えられた攻撃に留まらない意味をもちます。何としても、この裁判に勝利しましょう。

世登和美(大学教員)

この裁判が負けるということは、三井さん一人の負けに留まらず、男女平等の理念に理解と熱意を持つ弁護団もとも負けることであり、全国から結集している社会の男女平等化を強く望む多数の女性たち全体が負けることになる!!というものです。これはもう、「男女平等」という理念そのものの負けであり、後退であると思ひ、何としても勝たなければ、勝たせなければ、との気持ちが強く湧いています。

岡田夫佐子(保育士)

バックラッシュ許すまじ！ 私の戦後のたたかいをこの裁判に託します。

佐々木良子(大阪府箕面市、元中学教員)

45721号(日刊)
朝日新聞
1年契約で館長 常勤導入で失職
「非常勤使いに捨て」に反発

▲ 女性施設 絶えぬ労使紛争
男女平等が目的なのに...低賃金で不安定
1年契約で館長 常勤導入で失職
「非常勤使いに捨て」に反発
竹信三恵子記事より
『朝日新聞』 生活(2007年12月29日)

2007年11月6日(火) 週刊新社会
三井マリ子さん一審敗訴、控訴審へ

私たちは決して後戻りしない

三井マリ子さん敗訴から控訴へ
私たちは決して後戻りしない
木村昭子
『週刊新社会』(2007年11月6日)

千里タイムズ (月2回 第1・3金曜日発行) 2007年11月30日 (2)
豊中すてっぶ 雇止め裁判 不当判決に抗議
三井マリ子さんら地裁前でデモ

▲ 豊中すてっぶ雇止め裁判 不当判決に抗議
三井マリ子さんら地裁前でデモ
『千里タイムズ』(2007年11月30日)